

大谷会長と
手に外す
する大谷会長と
賞書を石原校長(左)

富山高専、講義開講で県機電工業会と覚書

富山高専は、富山県内230社の製造業でつくる一般社団法人富山県機電工業会（大谷渡会長）との間で、富山県のものづくりの更なる強化に向け、富山高専に富山県機電工業会の特別講義を開講することになり、2月8日に覚書を締結した。特別講義は専攻科全専攻の1年生を対象に、平成28年度後期から実施する。同会員企業13社から最前線の現場で活躍する技術者が講師を務め、学生は、地域の産業とその技術を直に学び、地域の産業を理解して就職や進学に役立てることを目指す。



パネルディスカッション

講演するヨーロッパ教授が趣旨説明。講演では、ボン大名譽教授・法政大國際日本研究所客員所員のヨーゼフ・クライナー氏が「シーボルトの日本コレクションとヨーロッパにおける日本研究」、大場秀章東京大名譽教授が「ジャポニズムの先駆けとなつたシーボルトの植物」、松井洋子東京大史料編集所教授が「近世日本を語つた異国人たち・シーボルトの位置」と題し、日本文化がヨーロッパに紹介され、受容された歴史や、シーボルトが来日した目的、その後のジャポニズムへの影響などをわかりやすく解説した。講演に引き続き行われたパネルディスカッション「シーボルト研究の現状とこれから」では、大久保純一歴博教授による司会進行で、日高教授と講演者がパネリストを務め、今後のシーボルト研究の展望について意見交換。さらに、参加者から寄せられた「ドイツにおけるシーボルトへの興味の高さは?」「シーボルトのアイヌへの関心はどうだったのか?」など質問に対し丁寧に説明した。

最後に、久留島浩歴博館長が閉会挨拶を行い、シンポジウムを締めくくった。当日は、雪の予報にもかかわらず研究者や一般の参加者約370名が来場し、シーボルト研究に対する関心の高さがうかがえた。参加者からは、「ジャポニズムが欧州に広がつた経緯が理解でききた」「日本文化について興味が広がつた」「日本学を再認識した」といった感想が寄せられるなど、好評を得た。

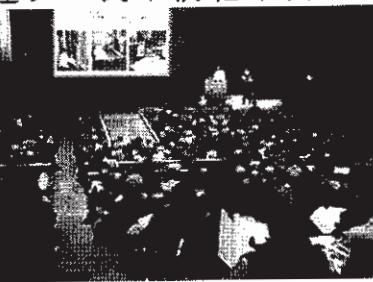


講演するヨーロッパ教授

人間文化研究機構は、「没後150年 シーボルトが紹介した日本文化」をテーマとする第27回公開講演会・シンポジウムを去る1月30日にヤクルトホール（東京都港区）で開催した。この公開講演会・シンポジウムは、人間文化研究機構の研究活動と成果を市民にわかりやすく伝えることを目的とするもの。今回は人間文化研究機構が2010年度から推進してきた「日本関連在外資料の調査研究」事業でのシーボルト父子関係資料の調査研究プロジェクトによる成果を中心に、同プロジェクトの総括機関である国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市）が企画した。

冒頭に、立本成文人間文化研究機構長による開会挨拶後、研究プロジェクト統括責任者である日高薰歴博教授が趣旨説明。

講演では、ボン大名譽教授・法政大國際日本研究所客員所員のヨーゼフ・クライナー氏が「シーボルトの日本コレクションとヨーロッパにおける日本研究」、大場秀章東京大名譽教授が「ジャポニズムの先駆けとなつたシーボルトの植物」、松井洋子東京大史料編集所教授が「近世日本を語つた異国人たち・シーボルトの位置」と題し、日本文化がヨーロッパに紹介され、受容された歴史や、シーボルトが来日した目的、その後のジャポニズムへの影響などをわかりやすく解説した。



人間文化機構が公開講演会・シンポを開催
没後150年 シーボルトが紹介した日本文化

講演を熱心に
聞き入る来場者

（第三種郵便物認可）